

ニュースレター

宝塚市自然保護協会会長 和田秀彰

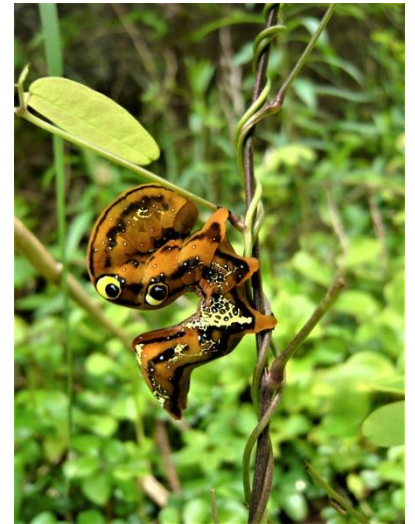
投稿先: m_kakita2711@yahoo.co.jp (垣田へ)

昨年より発行していたニュースレターを、今年度も発行することにしました。このニュースレターは、会員皆様の情報交換となります。皆さんの周りにある自然、植物や昆虫でも自然現象でも、「こんなの見つけた」という気軽な感じで投稿をお願いします。写真と文章で投稿していただければ、皆さんにも伝わりやすいかなと思います。

アケビコノハ ——図鑑では見るけれど—— 森本敏一

少し気味悪いアケビコノハ (ヤガ科) の幼虫を、武田尾溪谷で見つけました。一度見たいと思っていたものの一つでした。アケビのツルが目に入ると必ず近づいて見続けてきました。やっぱり、実物は気持ち悪い目玉模様ですね。これをおかしいという人もいますので好みの問題かと。それよりもよくもうまく模様を付けたものですね。

武田尾はなぜか魅力感じます。人里から隔絶された別世界に思えます。ただただ川の流れる音と緑の山々だけ、何回行ってもワクワクするのは私だけかでしょうか。



「生態が面白いキキョウソウ」 森田 至



キキョウソウはキキョウソウ科キキョウソウ属の1年草です。別名にダンダンキキョウというのがあります。

これは花が下から上方にダンダンと咲き上がることにより、英名は common venus`looking-glass 「ビーナスの手鏡」で、果実が熟すと萼筒の壁が穴が開いている (写真) 様子から付いたようです。

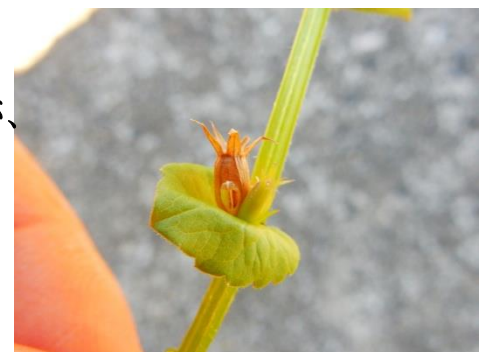
生態的特徴として、初期に出てくる花 (下方) は閉鎖花で自家受粉をして確実に子孫を残す役割があります。

また閉鎖花は派手な花卉を作る必要もなく、雄蕊の数も少なくすみ、コスト的なメリットもあります。しかし近親交配による遺伝的組み合わせの多様性が低下するデメリットもあります。

一方、後から出てくる上方の花は開放花を作ります。この開放花はキキョウと同じ雄性先熟で閉鎖花とは逆に他家受粉をして遺伝的多様性を図る戦略です。

すなわち、まず確実に子孫を残してからその後遺伝子の多様化を図るという巧みな戦略です。面白いのはスマレも閉鎖花を作りますが、スマレは逆の戦略で、先に開放花を作りそののち閉鎖花を作ります。

種子散布も変わっています。裂開果の一種で孔開?果と言われ、果実が熟すと萼筒の壁の側面に穴が開き (写真) そこから種子が風で揺られてこぼれ出る風散布です。中には茎を抱いた葉の上に落ちているものもあり、この場合は雨滴散布も考えられるでしょう。



「カミキリムシを追っています」 垣田 衛

介護の生活に入って3年。月2回程が私にとって自由になる時間。時々、気分転換に武田尾へ出かけます。丹波出身ですから、小さい時から虫と戯れていました。今はカミキリムシを追っています。武田尾は山に囲まれ、自然豊かな環境ですから、様々な昆虫に出会えますね。

写真は、今年4月から武田尾で出会ったカミキリムシです。ヒメスギカミキリはもう発生時期が終わりましたが、他のカミキリムシはよく見られるカミキリムシです。武田尾以外でもいると思いますので、見つけてみてください。



ヨツキボシカミキリ



ミドリカミキリ



ヒメスギカミキリ



ツマグロハナカミキリ



ベニカミキリ



ラミーカミキリ

※会員の方から「今、テングチョウがすごいですね。ゆずり葉台の建築現場近くの道に、あふれ飛んでいました。道路の何かを給水しているのでしょうか」と・・・。



いま山に行くとテングチョウが群れています。

動画でお届けできないのが残念ですが、歩くたびに一齐に飛び立ちますね。ネットで検索しても「なぜ」の答えはないようです。食草がエノキですから、発生場所の近くにエノキがあればサナギの抜け殻がたくさんついているのが

見られますね。(小さくて見えにくいかも、写真2枚は道場で撮影)



※お知らせ 再度、協会会員限定の行事をお知らせします。

6月12日(土)「武田尾ウォーク」(武庫川溪谷にサツキを見に行こう)

集合場所: 9:30 JR武田尾駅 12:30 生瀬駅解散予定

参加者持ち物(必携): マスク・懐中電灯・水分。申込み: var007sinennsis@hop.ocn.ne.jp 森本

前日のNHKテレビ18:50からの天気予報の降水確率が50%以上ならば中止